

2020 年度事業報告

2020 年度は新型コロナが急速に蔓延し、その影響で災害救援・支援活動、講演活動、イベント開催等、大きな制限がありました。そのような中発生した「令和2年7月豪雨」においても全国各地の広い範囲で被害が発生しましたが、被災地以外からの応援が制限されました。そこで、過去の災害でつながりの深かった障害者団体や、全国の災害支援の団体とも連携し、情報収集や支援活動を行いました。

近年の頻発する大規模災害に備えて、昨年度は「ゆめ風応援団」の拡大に努めた結果、今年1月末現在で52団体の協力を得ることができました。今後さらにネットワーク拡大に力を入れていきます。

昨年はコロナ禍にもかかわらず、2019年度と同様に6400万円余りのもの寄付金をいただきました。その中には多額の個人寄付金も含まれます。(2019年度6510万、2018年度5600万)。寄付をしてくださる方の人数は、2018年度3045人、2019年度2900人、2020年度2526人と大きく減少しています。寄付額や人数は災害の規模とほぼ比例していますが、コロナの影響で生活苦に陥る人も数多くおられることも容易に推測できます。そうした中でも寄付を寄せてくださる方々の思いを大切に被災障害者支援の取り組みを進めてきました。

講演活動を含むその他事業収入は2019年度と比べ160万円減少しました。

以下に2020年度の具体的活動をご報告します。

1. 被災障害者救援事業

2020年救援金 総額 1250万5284円

令和2年7月豪雨

エコネットみなまた	作業場の修理、製造機器の買い替え等。	100万円
エコネットみなまた	備品購入費用	60万円
ブルートレインカンパニー	避難者住居の確保	368,000円
ヒューマンネットワークくまもと	避難者住居の備品及び車両購入費	625,000円
(特非)ひなたぼっこ	PC等の買い替え。備品の購入。	297,985円



ひなたぼっこ



エコネットみなまた

無利子貸し付け

社会福祉法人 白いキャンパス	事業所の改修工事費	16,808,000 円
----------------	-----------	--------------

2019年台風被害

NPO 法人たからばこ	半壊した事業所の改修工事費	1,794,299 円
NPO 法人ままはーと	浸水被害によるリフォーム工事費	2,500,000 円

※2019年に理事会決定し、2020年に支出したものを除く。

コロナ対策

NPO 法人 ふよう土 2100	衛生用品等備蓄のための物置設置	320,000 円
------------------	-----------------	-----------

2018年台風 21号

NPO 法人寝屋川市民たすけあいの会	被害を受けた事業所の建て替え費用	500 万円
--------------------	------------------	--------

東日本大震災（サポートV）

NPO 法人奏海の杜	新規建物の建設	300 万円
NPO 法人しんせい	ブルーベリー畑の整備費	200 万円
NPO 法人しんせい	農作物加工所の設備購入費	100 万円
NPO 法人奏海の杜	中庭・スロープ等整備	200 万円



サロンしんせい農園整備

2. 障害者防災活動支援事業

(1) 講演活動、ワークショップ

2020年度は当初はゆめ風基金設立 25周年ということで、神戸でのシンポジウムも計画したが、新型コロナの影響により中止せざるを得ませんでした。その他講演も次々と中止となり、2019年度と比較し、講演数は44件減となりました。

(2015年43件 2016年41件、2017年46件、2018年50件、2019年61件)

2020年度は17件の講演および小中学校での授業活動を行いました。

2020年講演先一覧

- 1月8日 桃山学院大学ボランティア活動支援
- 15日 天王寺区役所保険福祉課（福祉サービス）
- 2月1日 CIL あるる（防災訓練指導）
- 2日 京都市西部障害者地域生活支援センター西京
- 6日 大阪市西区社会福祉協議会
- 8日 大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会
- 15日 吹田市役所 危機管理室
- 21日 愛知県豊田市障害福祉課
- 29日 花園校区まちづくり協議会「花園防災会」
- 8月6日 **zoom**：富山市社会福祉協議会
- 8月17日 ビッグ・アイ（配信・収録）
- 10月14日 YOCA-YOCA・つながりの会
- 23日 むくのき学園（長崎）
- 11月16,17 両日午前午後で4回講演：大分県ボランティア・市民活動センター
- 12月11日 茨木市平田中学校（長崎）
- 16日 NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ
- 19日 **zoom**：富山自立生活センター

(2) 防災ネットワーク活動

- ① 東日本大震災直後から関西の障害者団体と協働で大阪救援本部を設立し、被災地救援活動や、被災者交流、東北～関西ポジティブ生活文化交流祭、街頭カンパなどの支援活動を行っています。2020年度はポジティブ生活文化交流祭もWEB配信で行い、該当カンパ活動も中止になりました。
- ② 地元の啓発小学校（むくのき学園）の要請で長崎が出向き授業を実施しました（ただし後半の10月は中止）。また人権学習として長崎が平田中学校で講演を行っています。
- ③ BCP研究会（協力）
引き続き大規模災害時における事業継続計画（BCP）策定研究に取り組みました。
- ④ おおさか防災ネットワーク
現在大阪では今後の災害に備えて、大阪の様々な団体（社共、大阪ボラ協、日赤、防災士会、NPO団体、企業など）が連携して動けるようにネットワークを組んでいます。これまでは定例会に参加するのみだったのですが、2017年12月よりゆめ風基金も世話役団体となって出席しています。

(3) 中学生プロジェクト大阪行動する障害者応援センターとの協働事業)

2020年度は新型コロナの影響により、中学生プロジェクトも生徒とともに学校での訓練は行うことができませんでした。ただ6月と7月に学校を訪問しての話やグループワークを行いました。

<p>中学生プロジェクトレポート！ ウィズコロナの中で</p> <p>おおさか行動する障害者応援センター 福島義弘</p> <p>6月4日、緊急事態宣言が解除されて間もなく、大阪市内の柴島中学校から二本の連絡が入った。「今年も中学生プロジェクトをやりたいのですが…」という先生の依頼を聞きながら、うれしさと不安が入り混じった。学校は長期休業を余儀なくされ、今年は依頼が来ないんじゃないかなと思っていた矢先の連絡に安堵。一方、ぼくたちは自宅待機から復帰しようとしていた段階。身体接触が避けられない避難訓練をどうしようという思いが脳裏に広がる。</p> <p>先生と打ち合わせの結果、避難訓練はリスクが高すぎると判断。そこで避難訓練に先立つて行う事前講習の枠を広げ、障害者の生の声をたっぷり聴いてもらうことにした。いつもは20分ほどで済ませていたコミュニケーションを今回は45分かけて話をさせて</p>	<p>もらう。言語障害の強い応援センターメンバーは、交代で話せるように2人で担当するグループを設けた。また、ふだん話し慣れている旨ろのみなさんも、話の内容を前日までしっかりチェックして臨まれたそうだ。</p> <p>7月10日、総勢13名の障害者が訪問して、1グループ5人程度のグループピング。言語障害の強い人とそうでない者でペアを組みフォーし合いながら話を進めたり、ノートパソコンに伝えたい内容や写真を映し出して説明したり。人によって話の内容や伝え方に違いはあるものの各々にメッセージを伝えられた。生徒たちは大人とのやり取りに不慣れな部分を持ちつつ、一生懸命に話を聞いてくれるその姿が印象に残る一日となった。</p>	
--	---	--

(4) 障害者市民防災活動助成事業

2020年度の障害者市民防災活動助成については、8件の申請があり、下記の4件について助成しました。

①NPO 法人難病心身障害児・者を支えるみなのかい（青森県）

「WITH コロナ 多様性配慮における避難所運営を考える」 10万円助成

コロナ禍で「避難所」はどう変わらざるを得ないか。大災害とコロナ禍で生き延びるため、地域の皆さん、障害児・者、難病患者とその家族たちが集い避難所体験を行った。

②高松ボランティア協会（香川県高松市）

「災害弱者の安全ネットワークを考える」 10万円助成

災害が少ないため「大災害」への危機感が薄い四国・香川県。障害当事者に「被災したらどうするか」などの聞き取り調査を行い、危機意識をもってもらおう。さらに被災地・倉敷市真備町を視察し、その経験を共有し、誰もが安心して住める街づくりへとつなげていきたい、という活動を行った。

③NPO 法人 NEXT しらかわ（福島県白河市）

「障害児童による防災訓練活動と住民ネットワークづくり」 8万円助成

放課後デイサービス事業所と連携し、障害児童の防災訓練を行う。被災時はパニックになりやすい児童が多いため安全な場所に避難するには地元の皆さんの協力が不可欠である。訓練を一緒に行うことで

信頼関係を築くことが目的。また非常事態における食事の変化についていけないことが多いため実際に炊き出しや非常食を食べてみる。98,600円申請のうち、8万円を助成。

- ⑤ 「習志野市障がい児童民間事業所協力連絡会」（10万円の申請中、4万円を助成）
「被災時に私たちがやるべきこと」に関してはコロナ禍の影響もあり、まだ実施できていません。

(5) 障害者防災提言集、事例集等の広報、販売をしました。

書籍等も講演が激減した影響により、販売数が落ち込みました

- 旧提言集改訂版（2012年12月発行） 1冊販売
（2015年122冊、2016年131冊、2017年90冊、2018年53冊、2019年62冊）
- DVD「逃げ遅れる人々」（2013年2月東京救援本部制作） 2本販売
（2014年19本、2015年23本、2016年13本、2017年6本、2018年1本、2019年12本）
- 中学生プロジェクトDVD（2018年3月制作）14本販売
（2018年161本販売 101本進呈、2019年77本販売 6本進呈）
- SOSにこたえたい！熊本地震2016～2017年報告冊子 1冊（2018年 219冊、2019年83冊）

3. 被災障害者支援を広く訴える活動

- (1) ニュースレター「ゆめごよみ風だより」（B5判8～16ページ）を季刊発行し支援者、関係者、関係機関団体に被災地発、障害者発の情報を届けました。東日本大震災以降、支援者は大幅に増え発送先は1万4866人（※昨年より366増）にのぼっています。発行部数は1万6千部。発行回数は1月、5月、9月、12月の4回。

(2) 主催・共催事業

- ① 「カタログハウスの学校」と一緒に続けてきた「ゆめ風であいましょう」を2020年7月4日に東京都練馬区で開催。今回は新型コロナの影響により、十分なソーシャルディスタンスを取り、受付で検温や消毒などをしてもらい入場してもらいました。「反抗のこぼれ」をテーマとし、いとうせいこうさんをゲストとし、呼びかけ人代表の小室等さんとのトークセッションを行いました。200人以上の方が参加くださり好評でした。
- ② 11月23日に第11回ポジティブ生活文化交流祭（60団体、3500人参加）を共催しました。今回は新型コロナの影響により、長居での公園を借りたイベントではなく、被災地の方々をはじめ、各地からZOOMを利用した会議形式でトークや歌など参加をしてもらい、それをyoutubeによる配信する形でイベントを行いました。

(3) 各種メディアに情報発信

「救援活動」、「防災活動」、「ゆめ風基金の活動」、などについて発信しました。

4. 情報の収集、関係諸機関、団体との協力及び連絡調整事業

引き続き関係諸機関、団体との連絡調整活動を行いました。

主な関係団体（委員・役員就任ないしは協働関係）

大阪救援本部、東北大地震東京救援本部（DPI、JIL 他）、熊本地震障害者救援本部、障大連、共同連、関定協、被災地 NGO 協働センター、おおさか災害支援ネットワーク、東淀川区インクルーシブ教育研究会、BCP 研究会、大阪ボランティア協会、大阪府教職員組合、大阪市職員労働組合、大阪市従業員労働組合 ほかのみなさま

5. その他目的を達成するために必要な活動

（1）ハラスメント防止規定の制定と防止委員会の設置

2020 年ハラスメント防止に関する準備委員会を立ち上げ、ハラスメント防止規定、ハラスメント防止委員会細則を検討し、12 月 10 日理事会に諮られ了承されました。また同日に 4 名のハラスメント防止委員も選任されました。

（2）シングル CD 「ゆめ風応援歌」の販売

2020 年は 1 枚（2015 年 38 枚、2016 年 29 枚、2017 年 21 枚、2018 年 3 枚、2019 年 2 枚）販売しました。

（3）近畿ろうきん提携融資制度「ゆめのたね」実施

2020 年度は 4 件の申し込みがあり、4 件とも申請通りの額の融資を決定した。

①特定非営利活動法人あろは(兵庫県姫路市)

2016 年第 1 回目の融資 500 万に続き 2 度目の申請。利用者の増加、事業拡大に向けた施設設置のための費用 500 万円の申請。

当初は利用者 5 名に満たない状況から、支援学校との連携を含め、就労 B 型、生活介護、施設外就労等 30 名弱の利用者を受け入れている。

②特定非営利活動法人百姓一揆(兵庫県川西市)

川西市の就労 B 型 9 カ所・定員数 185 名に対して、利用見込みが 289 名と圧倒的に社会資源が不足しており、100 名以上が遠い市外の事業所を利用。そこで農業による就労移行支援・就労継続支援等就労サービスを展開していくための初期費用 300 万の申請。

③特定非営利活動法人互楽会(大阪市此花区)

2002 年より就労継続支援 B 型を展開。移転に伴う新事業所の整備工事、旧事業所の撤去工事費用等 500 万円の申請。新事業所においては工賃向上のための施設外就労や地域の介護事業所等とのコラボ企画等を計画。

④特定非営利活動法人あすてる(兵庫県三木市)

2016 年 1 回目の申請、今回 2 回目の申請。障がい者地域活動支援センター、の相談

支援事業、グループホームを運営。補助金等が支払われるまでのつなぎ資金として150万の申請。

(4) 「ゆめ風ネットワーク」と「応援団」

全国54の障害者団体がゆめ風ネットとして、災害時の窓口を引き受けてくださっていて、大変心強い存在です。2020年度は冒頭でも報告したとおり、「ゆめ風応援団」として全国の団体に災害時に協力いただくことを要請し、その数は52団体となっています。

6. 会員構成と会議の記録

①会員の構成

運営会員：18個人、53団体

通信発送会員：14,866人

(2019年14,511人、2018年14,701人、2017年14,744人、2016年14,700人、2015年14,661人、

2014年14,562人、2013年14,549人)

領収書発行数：2020年1月2526人

(2020年2900人、2019年3044人、2018年2276人、2017年3595人、2016年2529人、2015年2583人)

②会議

○第19回定時総会を3月21日ゆめ風基金事務所で行いました。

2019年度事業報告、決算報告、2020年度活動計画が承認されると同時に、定款変更や役員改選が行われました。

○理事会を12回にわたって開催しました。

2020年度理事会

第1回	1月7日(火)	16:00～	於：ココプラザ406講義室
第2回	1月27日(月)	16:00～	於 ゆめ風基金事務所
第3回	2月20日(木)	18:00～	於 ゆめ風基金事務所
第4回	3月21日(土)	17:00～	於 ゆめ風基金事務所
第5回	4月13日(月)	16:00～	於 ゆめ風基金事務所
第6回	5月27日(水)	16:00～	於 ゆめ風基金事務所
第7回	6月29日(月)	16:00～	於 ゆめ風基金事務所
第8回	7月29日(水)	16:00～	於 ゆめ風基金事務所
第9回	8月26日(水)	14:00～	於 ゆめ風基金事務所
第10回	9月29日(火)	15:00～	於 ゆめ風基金事務所
第11回	11月25日(水)	16:00～	於 ゆめ風基金事務所
第12回	12月15日(火)	16:00～	於 ゆめ風基金事務所